あいち朝日遺跡ミュージアムへ おでかけの方にお得なお知らせ

2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

弥生時代 あいち朝日遺跡ミュージアム

観覧料
常設展も観覧できます

区分	一般	大学生・高校生（学生証のご提示が必要です）
個人	300円	200円
団体（有料20名以上）	250円	150円

※学校行事（高校以下）及びその引率者、中学生以下、障がい者の方及びその付き添いの方（1名まで）は無料

- 愛知県清須市朝日貝塚1番地
- TEL／052-409-1467
- 開館時間／9：30～17：00
- 駐車場／15台
- 休館日／月曜日（祝休日の場合は翌平日）及び年末年始（12/28～1/3）

戦国時代 清洲城

※あいち朝日遺跡ミュージアムから清洲城まで徒歩約10分

入館料
【大人】300円
【小人】150円（小中学生）※幼児無料

- 愛知県清須市朝日城屋敷1－1
- TEL／052-409-7330
- 開館時間／9：00～16：30
- 休館日／月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

古墳時代 体感！しだみ古墳群ミュージアム

展示室入館料
【一般】200円
※中学生以下無料

- 名古屋市守山区大字上志段味字前山1367
- TEL／052-739-0520
- 開館時間／9：00～17：00
- 休館日／月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 清洲城 **共通チケット**
2施設で計600円を **500円** 発券より半年間有効

あいち朝日遺跡ミュージアム 体感！しだみ古墳群ミュージアム **共通チケット**
2施設で計500円を **400円** 発券より半年間有効

大学生 高校生 2施設で計400円を 300円

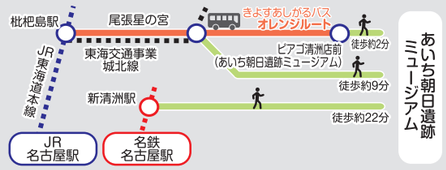
共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。

AICHI ASAHI SITE MUSEUM

あいち朝日遺跡ミュージアム

■ 愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■ TEL：052-409-1467 ■ 駐車場 15 台

公共交通機関



クルマ

名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から約1分
清洲公園駐車場もご利用いただけます。
駐車場の数には限りがあります。出来る限り公共交通機関のご利用をおすすめします。

あなたに夢を、街に元気を。 クーちゃん 宝くじ

https://aichi-asahi.jp/ SNSもご覧ください

朝日遺跡だより vol.9 令和5年6月発行 発行・編集：あいち朝日遺跡ミュージアム
〒452-0932 愛知県清須市朝日貝塚1番地 TEL 052-409-1467

あいち朝日遺跡ミュージアムの今を伝える情報誌【季刊誌】

朝日遺跡だより

2023年6月 vol.9

新年度を迎えて
振り返りレポート／企画展「石の斧、鉄の斧」
弥生ムラづくりプロジェクトレポート
シリーズ／ミュージアム収蔵品ファイル
アカとクロがレポートするミュージアムの見所
連載／ミュージアムスタッフのこぼれ話
ショップグッズ紹介
古代体験プログラムのお知らせ
3月～5月のできごと
企画展「弥生人といきもの2023 魚をとろう!」開催のお知らせ

あいち朝日遺跡ミュージアム

新年度を迎えて

例年よりも早く訪れた春以降、次々と花々が見ごろを迎える中、2023年度も順調にスタートしました。

当ミュージアムは、東海地方を代表する弥生時代の遺跡「朝日遺跡」の魅力を発信する施設として、2020年11月に開館しました。昨年８月にはオープンからの来館者数10万人を達成し、11月には開館２周年を迎え大々的に「収穫祭」を催すことができました。企画展も新企画「あいちの発掘調査2022」を（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターと協力して開催し、考古学の視点から県内の地域と歴史を概観できる展示としてご好評をいただきました。

今年度も「石の斧、鉄の斧」を始め４回の企画展、火起こし体験や勾玉作りなど「古代体験プログラム」や体験水田での米作りをとおして弥生体験を実践する「弥生ムラづくりプロジェクト」、さらには「ナイトミュージアム」など季節ごとのイベントの実施など、様々な企画を通して朝日遺跡の魅力を余すところなく発信してまいります。

当ミュージアムもスタートの期間を過ぎ、事業をさらに磨き上げ、充実を図る時期が来たことを痛感しています。皆様方の御期待に応えられますようスタッフ一同努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

あいち朝日遺跡ミュージアム館長
洲嵜　和宏

1992年　県立学校教諭として就職
1999年から、県の埋蔵文化財調査及び文化財保護担当者として、学校と県文化財関係機関を行き来する
2022年　愛知県埋蔵文化財調査センター所長兼あいち朝日遺跡ミュージアム館長に就任

企画展 振り返りレポート

企画展 石の斧、鉄の斧

期間 2023年4月29日（土・祝）～6月25日（日）
場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

木の伐採・加工に用いられてきた斧。弥生時代は、石の斧から徐々に鉄の斧へと変わっていった転換期でした。石斧から鉄斧への転換は人々の生活をどのように変えていったのでしょうか。今回の企画展では、本館及び愛知県埋蔵文化財調査センター（弥富市）が所蔵する旧石器時代から古墳時代までの石斧・鉄斧に関する資料を展示し、先史時代の斧の役割、変遷について紹介しました。

主な展示品は、瀬戸市上品野（かみしなの）遺跡の旧石器時代の局部磨製石斧、豊川市麻生田大橋（あそうだおおはし）遺跡をはじめとする縄文時代の磨製石斧と打製石斧、瀬戸市長谷口（せぐち）遺跡、新城市吉竹（よしたけ）遺跡、同石座神社（いわくらじんじゃ）遺跡出土の鉄斧などの県内の出土品です。また、朝日遺跡からは、重要文化財に指定されている磨製石斧100点以上、斧柄や斧の刃の痕跡が残る木製品などを展示しました。

今回の企画展では、南山大学の調査団がパプアニューギニアで収集した民族資料の石斧も展示しました。日本では石斧が姿を消してから2000年以上の時が過ぎていますが、パプアニューギニアでは20世紀になっても石斧が使われていました。柄に装着されたままの斧は、どのようにして石斧が使われていたのか、考古資料を考えるうえでもたいへん参考になります。

企画展ポスター

また、復元した石斧、鉄斧とこれらを使用した木の伐採体験、鹿角（ろっかく）に残る斧の痕跡と石器・鉄器を用いた鹿角の加工実験など、実験的な取り組みにより、石斧から鉄斧への移行を明らかにしようとする研究についても紹介しました。

鉄斧:吉竹遺跡他（愛知県埋蔵文化財調査センター蔵）

磨製石斧:朝日遺跡（重要文化財・本館蔵）

企画展示室

復元石斧・鉄斧（本館蔵他）

柄付石斧・鉄斧:パプアニューギニア民族資料（南山大学人類学博物館蔵）

最後に、本展の開催にあたり、御協力いただきました所蔵機関をはじめ、関係者、関係機関に厚くお礼申し上げます。

（原田　幹）

弥生ムラづくりプロジェクト レポート

体験水田での稲作をとおして古代米の田植えから石包丁を使った稲刈りまで弥生体験を実践しています。

環境整備 2023年 4月22日（土）

弥生ムラづくりプロジェクトとは、ミュージアムの屋外にて高床倉庫や竪穴住居、環濠など、復元された弥生時代のムラの再現ゾーン「体験弥生ムラ」で、皆さまと弥生時代を体感していくプロジェクトです。

この楽しいプロジェクトには草取りなどの日頃の環境整備が欠かせません。この日は体験水田と復元方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）の草取りをボランティアスタッフと行いました。そのおかげで体験水田は5月6日（土）に田起こしを行い、令和5年度の米作りがスタート。復元方形周溝墓は、5月4日（木・祝）「弥生こどもの日」にフォトスポットとなり注目を浴びました！環境整備って、大事ですね。

田起こし 2023年 5月6日（土）

弥生ムラづくりプロジェクト、今年度最初の体験水田での活動は「田起こし」です！

体験弥生ムラの中には体験水田が作られており、お米ができるまでの様子を皆さまと一緒に1年かけて関わっていきます。

「田起こし」では、朝日遺跡出土品モデルの復元農具を使用します。また、木製農具と鉄製農具で耕作エリアを分けて、稲の成長を比較する実験も行っております。木製の鍬に比べて、鉄製の鍬の方がよりしっかりと鍬の先が土に入り込み、深いところまで田んぼを耕すことができましたが、この違いはお米の成長にどのように変化があるのでしょうか…！お楽しみに！

シリーズ
ミュージアム収蔵品ファイル No.8

このコーナーでは、あいち朝日遺跡ミュージアムの収蔵品から、選りすぐりの資料を紹介していきます。

袋状鉄斧

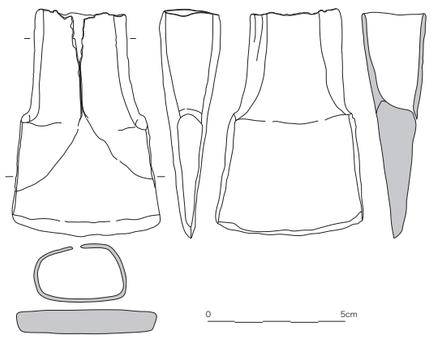
鉄は腐食しやすく、素材として再利用も容易なため、遺跡から出土する事例はきわめて限られます。愛知県では、弥生時代後期（1〜2世紀）になると、数は少ないですが鉄製の斧が出土するようになります。弥生時代中期までたくさん使われてきた磨製石斧がほとんどみられなくなることからも、実際には鉄器がかなり普及していたと考えられます。

朝日遺跡から出土した鉄斧はこの時期の代表的な資料です。この鉄斧は、北居住域を回る弥生時代後期の環濠から出土しました。

鉄斧は身と袋部（柄を差し込むソケット状の部分）との間に段がある有肩袋状鉄斧（ゆうけんふくろじょうてっぷ）で、鉄斧の大きさは、長さ83mm、刃幅54mm、基部の幅33mm、基部の厚さは22mmです。重量は159.5gあり、手に持つとずっしりと重さを感じます。袋部の形状はほぼ長方形となっており、薄く伸ばした鉄板を内型に巻き、鍛打して身に巻き付け成形するという高度な技術が用いられています。朝鮮半島で製作され日本に持ち込まれたことも想定され、東アジアにおける鉄器の製作技術や広域の流通を考えるうえでも非常に重要な考古資料です。

（原田 幹）

袋状鉄斧



袋状鉄斧実測図

袋状鉄斧の復元品

参考文献 ： 村上恭通 2007 「朝日遺跡02Bd区出土袋状鉄斧と東アジアの鉄斧製作技術」『朝日遺跡Ⅶ』
財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター

朝日遺跡マスコットキャラクター
「アカ」 「クロ」

アカとクロがレポートする ミュージアムの見所（屋外編その8）

学芸員に聞こう！

Q1 本館の建物の近くに、小さな丘があるね。あれは何？

あれは方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）という、弥生時代のお墓を復元したものです。四角いマウンドを溝が囲んでいる墓、という意味です。

復元方形周溝墓の全容

Q2 えっ？こんな所にお墓？？

復元なので、ここに亡くなった方は埋まっていません。そこは安心してください。お墓は古い時代の社会について様々なことを教えてくれる、とても重要なものなんです。朝日遺跡でも多くのお墓がみつかっています。

発掘された方形周溝墓

Q3 朝日遺跡のお墓からはどんなことがわかるの？

朝日遺跡の集落では、人がすむ場所は集落の中心部、お墓はその周辺部、とはっきり場所が分けられていました。生きている人の世界と、亡くなった人の世界をしっかり区別する考え方があったんでしょうね。

そして弥生時代を通して、お墓も姿を変えていきます。朝日遺跡に最初に住んだ人々のお墓は、今のところ墓穴だけを掘ったものしか見つかっていません。

方形周溝墓が登場するのはもう少し後になってから。高速道路建設前の調査で大小さまざまな方形周溝墓がみつかり、最大のものは長辺が約30mもありました。朝日遺跡が巨大集落に発展する頃に造られており、おそらく当時の指導者のお墓だったと考えられています。

弥生こどもの日の埋葬体験の様子

Q4 えらい人は立派なお墓に眠るようになるんだね。

弥生時代は人々の間に身分の差ができてきた時代で、お墓の違いもその表れだと考えられています。時代が下るとさらに立派な墓が造られるようになり、朝日遺跡にはありませんが、弥生時代が終わり古墳時代になると巨大古墳が登場します。

でも、古代の人々にとってお墓は祭祀（さいし）の場所でもあるんです。現代でも、お墓参りの際に「ご先祖様、家族をお守りください」とお祈りする人はいますよね。集落の指導者は亡くなっても集落の守り神のような存在になると考えて、お墓も特に立派に造られたのかもしれません。

（田中 恵美）

Q5 えっ！？えらい人は亡くなってからも責任重大なの？それなら小さなお墓でゆっくりした方が気楽かも…。

そう考えると、ミュージアムの復元方形周溝墓はちょうどいい大きさかもしれませんね。

連載（シリーズ9）　ミュージアムスタッフのこぼれ話

当ミュージアムでは、屋外の復元貝層や史跡貝殻山貝塚交流館（別館）のはぎ取り貝層など、実際に発掘された「貝塚」をリアルに展示しています。

史跡内の「第1貝塚（貝殻山）」で初めて発掘調査が行われ、弥生時代の遺跡とわかったのが、94年前の1929（昭和4）年のことでした。

日本中には有名な貝塚が数多くありますが、貝殻山の調査より50年以上前の1877（明治10）年、東京で発見された「大森貝塚」の発掘調査が日本の考古学研究の出発点といわれており、重要な出来事です。

時代は違いますが、朝日遺跡の貝塚と大森貝塚には共通点もあり研究のヒントを与えてくれます。今回は貝の種類に注目してみます。

交流館の貝層を観察すると、主に二枚貝のハマグリとカキが多く、ハイガイやヤマトシジミ、巻貝のアカニシが見られます。一方、大森貝塚ではカキやシジミが見られず、かわりに二枚貝のアサリやサルボウが加わるそうです。他の種類の貝もいるのに、おいしい貝ばかり選んで採集したことでは、縄文人と弥生人で（現代人も）共通しているようです。

では、集められた貝の種類が、なぜ朝日遺跡と大森貝塚で違うのでしょうか。

二つの貝塚では、湾の奥のような場所で砂や泥が広がる「干潟」のような浜辺を住みかとする貝が多いことは共通しています。ですが、朝日遺跡では河口のような川の水と海の水が混じる場所に住むヤマトシジミが見つかり、波打ち際の小石の多い浜辺を好むアサリは全然見つかりません。そのため、貝の種類の違いは、貝が集められた浜辺（本館のジオラマをごらんください）の環境の違いを反映していると考えられます。

まさか、朝日遺跡の人たちがアサリ嫌いということではないと思いますが。

交流館の貝層展示

大森貝塚遺跡庭園
（左の胸像は発見者のモース教授）

さて、大森貝塚は「大森貝塚遺跡庭園」として整備され、大都会のオアシスとなっています。私は昨年9月に訪問しましたが、残暑厳しい晴天の日、小さな子どもたちが庭園で遊んでいる様子に、朝日遺跡ミュージアムと一緒だなあとほっこりしたことを思い出します。

（館長　洲嵜 和宏）

ショップグッズ紹介 【 信長カレー 】

織田信長が活躍した頃、南蛮貿易の主役であったポルトガルは、インド西岸のゴアを東洋での活動拠点としており、日本に来航するにあたり、当地でカレーの材料となる香辛料を積み込んできたとしても不思議ではありません。

当時の日本では、牛は専ら農耕用であり、弥生時代には飼育されていた豚も既に絶えています。その一方、信長は「鷹狩」を愛好したことが知られており、その獲物としては、鳥や兎等が想定されます。このため、信長がポルトガル人の持ち込んだ香辛料を用いて、「鳥＆兎カレー」を食していたと想像してみるのはいかがでしょうか。

なお、朝日遺跡ミュージアムでありながら、今回信長カレーを取り上げたのは、もちろん例のドラマを意識してのことです。

信長カレー
ビーフ¥500・ポーク¥400（税込）

古代体験プログラムのお知らせ

土・日・祝 開催　会場：本館・体験学習室

※2023年7月1日(土)から9月30日(土)までの土・日・祝日に開催(各日1回)
※当日ミュージアム本館受付にてお申込みください。(事前予約はできません)
※イベント開催日は、通常と異なるメニューを実施する場合があります。

7月　教材費 350円　各回先着 10人

高坏づくり

作った高坏は「ナイトミュージアム」でライトアップされます。

■時間／15:00～(60分)

作例

8月　教材費 300円　各回先着 10人

おさかなモビールづくり

企画展に合わせて魚モチーフのモビールを作ります。

■時間／15:00～(45分)

作例

9月　教材費 50円　各回先着 10人

鹿角で釣針づくり

やすりで鹿の角を加工します。

■時間／15:00～(60分)

作例

3月～5月のできごと

イベント

「体験！弥生ムラ」

●日時：2023年3月4日（土）
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム
●内容：秋に収穫した米を復元した土器で炊飯する「土器どき！弥生ごはん」や、史跡内を学芸員のガイド付きで巡る「史跡体感ツアー」などのイベントを実施しました。当日は天候に恵まれ、多くのお客様にご来館いただきました。

「清須プロギング」

●日時：2023年3月25日（土）午前8時～午前9時
●場所：清洲城～あいち朝日遺跡ミュージアム周辺
●内容：「プロギング」とは、ジョギングしながらゴミを拾う、スウェーデン発祥の新しいSDGsフィットネスです。当日は小雨が降っていたためウォーキングをしながら清洲城～あいち朝日遺跡ミュージアムの間のゴミ拾いを行いました。

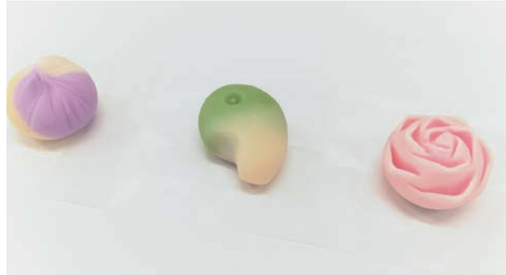
「弥生こどもの日」

●日時：2023年5月4日（木・祝）
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム
●内容：朝日遺跡から出土した土器を丁寧に洗い、土器の文様を紙に写すといった「土器洗い＆拓本づくり」や、復元した鍬や鋤を使った「田起こし」、ミュージアムの外に飛び出して資料の出土場所まで学芸員が案内する「朝日遺跡タイムトラベルツアー」など、大人も子供も楽しく弥生時代を体感できるイベントを実施しました。

体験講座

「お菓子づくりで楽しむ朝日遺跡」

●講師：渡辺康子 氏（御菓子処わたなべ）
●日時：2023年3月26日（日）午後1時30分から午後3時30分
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館・研修室
●内容：朝日遺跡の出土品である「勾玉」をテーマに「ねりきり」を作りました。学芸員による朝日遺跡や勾玉のお話もあり、お菓子づくりをとおして、朝日遺跡に興味を持っていただけました。



「弥生の籠を編んでみよう」

●講師：下濱貴子 氏（小松市埋蔵文化財センター所長）
●日時：2023年3月11日(土)　午後1時30分から午後3時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館・研修室
●内容：手芸用のクラフトテープを使って、弥生時代の籠づくりの技術を用いながら、小型の籠を編みました。

講演会

「石の斧・鉄の斧から弥生時代を考える」

●講師：佐藤由紀男 氏（岩手大学特命教授）
●日時：2023年5月14日（日）午後1時30分から午後3時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館・研修室
●内容：縄文時代の石斧と弥生時代の石斧とでは、いくつかの違いがあります。また石斧と鉄斧とでは、用途は同じながら、流通の様相は大きく異なります。これらを整理し、その背景について紹介しました。

企画展「弥生人といきもの2023　魚をとろう！」開催のお知らせ

会期：2023年7月22日(土)～9月18日(月・祝)

あいち朝日遺跡ミュージアム（清須市）では、大人だけでなく、子どもたちにも朝日遺跡や弥生時代について興味を持ち、理解を深めていただくため、弥生時代の人々と様々な「いきもの」との関わりについて紹介する企画展を毎年開催しています。

3回目となる今回の企画展では、弥生時代の漁の対象であった「魚」を取り上げます。河口や海に近い朝日遺跡の集落では漁が盛んに行われ、各種の漁具や魚の骨が出土しています。

本企画展では、朝日遺跡で出土した多数の漁具や魚の骨をはじめ、日本各地の遺跡から出土した魚や海のいきものに関連した出土品を展示し、弥生人と魚の関わりについて紹介します。

企画展チラシ